令和６年度第１回 刈谷市多文化共生推進委員会

議事録

■ 日　時 ：　令和６年１０ 月１７日（木）午前１０時００分～１１時３０分

■ 場　所 ：　刈谷市役所５階５０２会議室

■ 出席者

所　　属	氏　　名
東京外国語大学 准教授	小　島　祥　美
国立大学法人愛知教育大学 国際企画課	高　木　遠　慧
刈谷市教育委員会 学校教育課	野々目　将　之
刈谷市国際交流協会	西　村　日出幸
一ツ木自治会	及　川　啓　太
ＳＢＫ	川　口　ビバリ
ＶＮＫ	チャン　バン　トン
市民委員	安　田　寛　二
刈谷市 市民活動部　部長	宮　田　孝　裕

■ 欠席者

愛知県国際交流協会 交流共生課	杉　山　美　紀
株式会社デンソー 総務部刈谷総務人事室	北　野　達　生
Oasis Brasil	小　池　ソニア
市民委員	清　水　　玲

■ 事務局

市民活動部 協働推進監兼市民協働課長	渡　部　貴美子
市民活動部 市民協働課　課長補佐兼協働推進係長	加　藤　史　彦

市民活動部 市民協働課　協働推進係　主任主査	眞　野　浩　志
市民活動部 市民協働課　協働推進係　主事	木　下　和　希

■ 配付資料

次第、委員名簿

資料１　本市の外国人市民の状況について

資料２－１　（概要版）第２次刈谷市多文化共生推進計画の各取組について

資料２－２　（各目標）第２次刈谷市多文化共生推進計画の各取組について

資料２－３　（詳細版）第２次刈谷市多文化共生推進計画の各取組について

資料３　第２次刈谷市多文化共生推進計画の重点協働プロジェクトについて

■ 議事録

１．開会

◇ 出欠席者の確認、配付資料の確認

◇ 委員の自己紹介、事務局の紹介

◇ 委員長の選出：事務局案として小島委員を推薦し、拍手で承認された。

◇ 副委員長の指名：委員長が西村委員を指名し、拍手で承認された。

◇ 委員長あいさつ

２．議題

（１）本市の外国人市民の状況について

◇事務局が資料１を基に説明。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委　　員：日本人の人口や年齢層についても比較のために教えてほしい。

事 務 局：昨年時点のデータによると、刈谷市民の約２８人に１人が外国人というぐらいの割合である。年齢層については、外国人の中でも特にベトナム国籍の方は生産年齢人口が多いが、それに比べると全国の状況と同様に刈谷市においても日本人市民は高齢化傾向にある。

　直接関係はないが、直近のデータでは、外国人と日本人を合わせた出生数の方が死亡数よりも若干少ないという状況である。

委　　員：資料１、Ｐ３について、刈谷市はフィリピン・ベトナム国籍の人が多く、愛知県・全国

とは構成が違っているが、その背景についてはどのように考えるか。トヨタ関連企業が多いことも起因しているのだろうか。

事 務 局：ベトナム国籍の方は、技能実習など仕事のために日本に来ている方が多いので、企業がある周辺に在住される傾向があると考えられる。そういった理由で、刈谷市の南部地域で近年、増加傾向にあるのだと考えられる。ブラジル国籍の方は、もともとは刈谷市にも多かったが、数年前に市内のブラジル人学校が閉鎖したこともあり、近年は少し減ってきている。

委 員 長：フィリピンやベトナムの方からは、多くの方が刈谷市に住んでいるのは、刈谷市に魅力があるためという声はあるだろうか。

委　　員：フィリピン人からは、刈谷市は他の地域よりもトラブルが少なく、暮らしやすいという意見がある。仕事も見つけやすく、交通の便もよいのが魅力だと思う。

委　　員：ベトナム人は仕事のために来日しているので、それぞれの職場の近くに分散して住んでいる。刈谷の魅力については、ベトナム人からはあまり聞いていない。

委 員 長：技能実習の方は職場が決まっているので、住むエリアも限られてくる。「技術・人文知識・国際業務」の在留資格の方は、よりよい職場を求めて、その職場の周辺に在住するのが実情だろう。

　留学生の方は、刈谷市内に住んでいる人が多いでしょうか。また、多い国籍はどこでしょうか。

委　　員：愛知教育大学の留学生は、大学周辺に住んでいる人が多く、刈谷市に住んでいる人が多い。多い国籍は中国です。

委　　員：資料１，Ｐ９について、語学指導が必要な生徒数はどのように判断しているのか。

委　　員：来日して間もない児童は、プレスクールといって、日常会話程度の初期の語学指導を行っている。一方で、ある程度日本語ができる児童は、母語で会話や相談ができる機会を設けながら語学指導をしているケースもある。同じ語学指導でも外国籍の指導員が指導するケースもあれば、日本人の教諭が指導しているケースもある。そのため判断基準はケースにより様々というのが実情である。必要性は本人の困り感・保護者のニーズ・学校の判断の３つの要素による。その３つが揃ってはじめて、語学指導が提供されるが、学校としては、授業に対応できるように、生活で困らないように、将来困らないようになどと

いう思いがあるので、語学指導を勧めることが多い。

委 員 長：語学指導とは具体的にどういったものか。

委　　員：日常的な会話ができるようになるというのが１つある。また、教科で必要な言葉を覚えるということもある。

委 員 長：日本語指導ではなく、語学指導としていることがポイントであると感じた。教科に必要な言葉を覚えるにあたっては、日本語に限らず母語を活用するという方法もあるということではないだろうか。

　子どもは何語という概念はなく、発達段階で様々な言葉が混ざり合って１８歳ぐらいでまとまってくるものである。色んな言語を子ども達が自己表現したり、思考したりするためのツールとするという考えで、指導されているのかなと感じた。自宅では母語を使い、学校では日本語を使う子どももいるだろう。そういった子どもは、家庭では母語で概念を理解し、学校教育については日本語で概念を理解し、それが頭の中でミックスされる。そういった環境が作られていることはとてもよい。母語で考える力がある子どもに対して、日本語だけと指導してしまうのはとてももったいない。日本語に限らず、色んな言葉で考えることが尊重されているのであれば、素晴らしいなと感じる。

（２）第２次刈谷市多文化共生推進計画の各取組について

◇事務局が資料２－１、２－２、２－３を基に説明。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委 員 長：周りの人から困りごと相談などされることがあるか。

委　　員：あります。最近もアパートを探しているとか、仕事に関することなどの相談がフィリピン国籍以外の外国人からあった。市役所へ相談するように案内したが、日本語が分からないため、相談を進めるのが難しかった。

委 員 長：行政サービスや日々の暮らしに密着した相談をされているということですね。

委　　員：ベトナム人女性は、子育てしながら仕事に就きたいと望む人が多いが、日本では難しいことも多い。保育園等に子どもをあずけて、フルタイムで遅くまで仕事をすることを望む人も多いが、なかなか難しいのが現状である。希望する保育園等に子どもが入れな

いことも多い。

委　　員：今年度に実施した取組として、刈谷北高校の国際探求科というクラスで「ワールド・スマイル・ガーデン」における多文化共生のコミュニティガーデンのボランティア活動を紹介する講座を実施しました。その後、そこの生徒３名が興味を持ってくれて、夏休みに「ワールド・スマイル・ガーデン」の活動に参加してくれた。そういった交流を通して、身近に多文化共生の機会があることを伝えることができてよかった。

委　　員：災害に関する外国人対応について、留学生に対しても地震をはじめとした災害対応について情報を伝えている。能登の地震の際も外国人が困っていたということも聞いている。実際に地震等の災害が起こるとパニックになりかねないが、そういう中でもどのように外国人をサポートしていくかを考えていかなければいけない。資料２－２、取組No「2-(3)-16-①」の目標に防災講座参加者数があるが、これによると講座に参加するのは多くの外国人のうちの一部にすぎない。多言語での情報発信も必要だと感じる。

委　　員：刈谷市の危機管理課が全体の災害対策の体制を整備する中で、国際交流協会も協力していけたらよいと思う。

事 務 局：登録していただければ、災害時における情報を多言語で発信できるツールがある。それを留学生の方にも知っていただければと思う。

　また、国際交流協会による生活のための日本語教室の中で、防災に関する講座の実施を昨年に引き続き予定しており、そこでは地震や風水害の際の対応について、防災に関する言葉も覚えながら、やさしい日本語を通して理解していただくという内容である。

　市のホームページには、多言語のハザードマップを掲載している。また、避難所配置職員向けに実施している研修（訓練）の内容の中には、外国人への対応に関する内容も含まれている。

委　　員：避難所は自治会が主に運営を担っているため、外国人の方も自治会に入ってもらえれば、災害対応に関する情報を得ることができる。自治会に入っていない人への対応も必要だが、入っていなくても地域の避難訓練に参加することはできるし、災害時に避難所に避難していただくこともできる。

　ホームページに多言語で情報を掲載したり、訓練を実施したりするだけではなく、プッシュ型で情報発信をすることで、外国人を含めた多くの人に訓練に参加していただき、理解を促進するなどの対策を推進していく必要があるだろう。

委 員 長：留学生の方や外国人コミュニティの方と一緒に災害対策を考えられる場を作っていけるとよいと感じた。

委　　員：日本語教育の推進の目標に関して、日本語教室にはどんな方が参加されているか。また、広報はどのようにされているか。

事 務 局：国際交流協会で実施している日本語教室は、主に大人の方を対象にしているため、一部子どもも参加しているが、大人が多い。企業に所属している方は、企業内でも日本語教育が実施されていることもあり、企業に所属している方の配偶者などが多い印象はある。しかし、企業に所属している方もある程度、参加されている。

委　　員：様々な方が参加されている。生活で困らないために参加される方もいれば、日本語検定の勉強のために参加される方もいる。進学にかかる受験のために参加される方もいる。
　広報は、ホームページや外国人コミュニティを通しての発信など様々な手段で行っている。子ども向けの日本語教室は国際交流協会では実施していないが、ボランティア団体が市民館等で子どもの居場所づくりという目的も持ちながら、実施しているものがある。

委　　員：愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルームが親子日本語教室を実施している。外国にルーツを持つ親子を対象に実施している。

委　　員：話に出たボランティア団体や愛知教育大学外国人児童生徒支援リソースルームは、学校教育の場でも日本語教育を実施していただいており、学校としては助かっている。

（３）第２次刈谷市多文化共生推進計画の重点協働プロジェクトについて

◇事務局が資料３を基に説明。

◇上記説明事項について、以下のとおり質疑応答、意見交換を行った。

委　　員；ワールド・スマイル・ガーデンの課題はありますか。

委　　員：地域の参加者が少ないのが、課題である。市や地域の自治会運営の経験がある人などが中心となって、立ち上げたコミュニティガーデンである。立ち上げから１０年ほどが経過し、そういった地域の自治会運営の経験がある当初のメンバーが引退され、少しずつ担い手が少なくなっていった。そういった中で自治会の人に新たに声をかけても、活動に参加はしてくれても、なかなか運営を担ってくれる人はいない。自分ぐらいの世代の地域の人に参加してもらえると細かいところまで行き届くのではないかと感じる。合同作業は盛り上がるが、日々の水やりなど、畑の維持管理は大変なところもある。

明るい話を挙げると、知名度が上がってきたこともあり、大阪に所在する繊維分野の企業の方が所有している土地で多文化共生のコミュニティガーデンをやりたいということで視察に来られて、情報交換した。こういった取材させてほしいという申し出があったり、大学生の卒業論文の題材にしていただいたりということがあり、活動していてよかったなと感じる。ワールド・スマイル・ガーデンの活動が全国の他地域にも広がっていくのはうれしい。活動はFacebookでも広報している。

３　その他

委　　員：１０月２７日（日）に国際交流協会主催で開催する「多文化交流フェスタ in 刈谷」の紹介。今年２回目の開催。外国人と日本人の交流などを目的としたイベント。

◇事務局から連絡事項を伝え、委員長が閉会した。